

平成21年度十勝管内の気象状況と生育状況

(1) 気象状況について

4月上・中旬は、高気圧の影響で、気温は平年より高く経過したが、下旬は一転して、気温が平年を下回る日が多かった。特に、中央部及び山沿いを中心に降雪があった。月平均気温は平年より高く、月間日照時間は多かった。月降水量は平年並だった。

5月上・中旬は、高気圧に覆われ、気温は平年より高く経過した。下旬に入ると低気圧等の影響で雨の降る日が多く、気温は平年並となった。月平均気温は平年よりかなり高く、月間日照時間は多かった。月降水量は平年より少なかった。

6月中・下旬は、発達した低気圧の影響で大雨となった。結果、中旬は、日照時間がほとんどなく、気温は平年より低く経過した。下旬に入って天候が回復し、気温は高くなった。月平均気温は平年並、月間日照時間は平年より少なく、月降水量は平年より多かった。

7月は、低気圧や前線の影響を受け、まとまった雨の降る日が多かった。また、下旬は局地的に激しい雷雨となった。気温について、上旬が平年より高く、中旬が平年並であったが、下旬の低温により、月平均気温は平年より低かった。日照時間は、上・中旬に平年より多かったが、下旬がかなり少なかったため、月間日照時間は平年並であった。

8月は、低気圧と高気圧の影響により天気は周期的に変わった。月平均気温、月間日照時間は平年並、月降水量は少なかった。

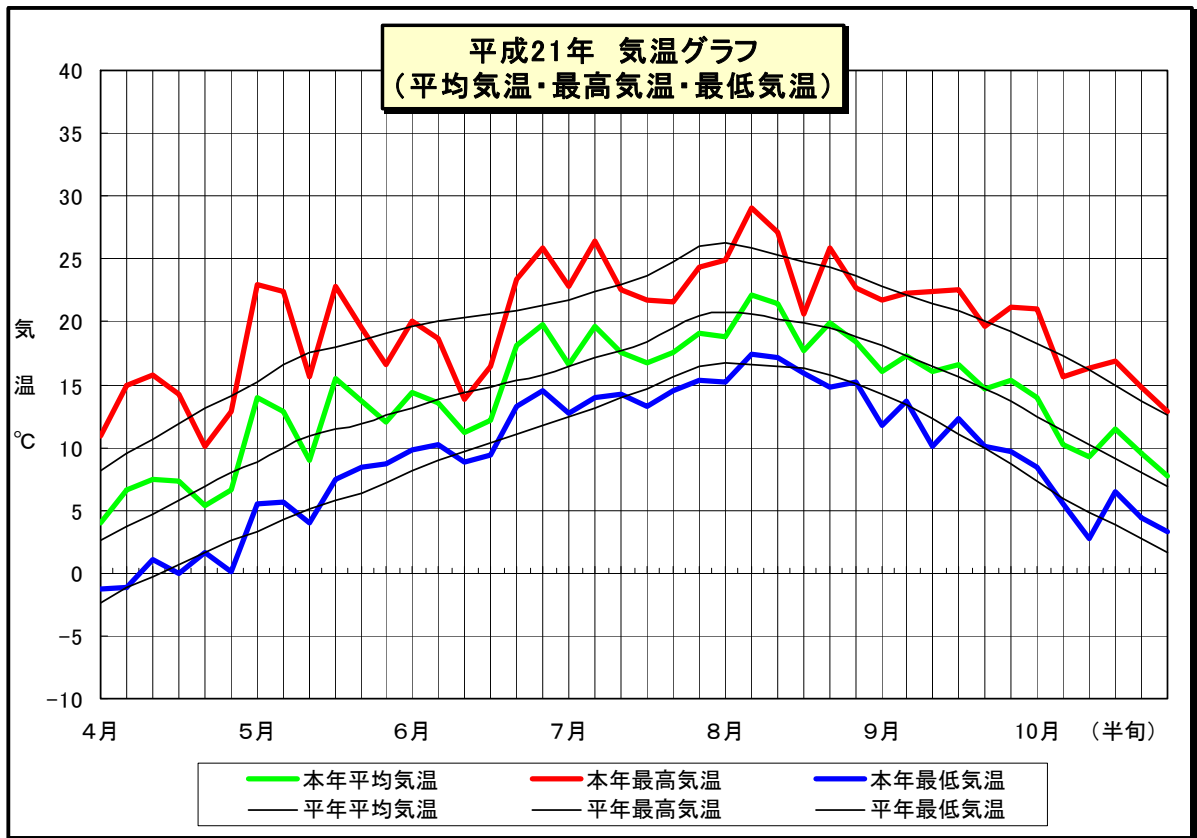
9月は、上旬は低気圧や気圧の谷の影響で雨の降る日が多かった。中旬以降は移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。月平均気温及び月降水量は平年並、月間日照時間は平年より多かった。

10月は、低気圧や台風、および寒気の影響で雨の降る日が多かった。月平均気温は平年より高かった。月降水量、月間日照時間ともに平年より少なかった。

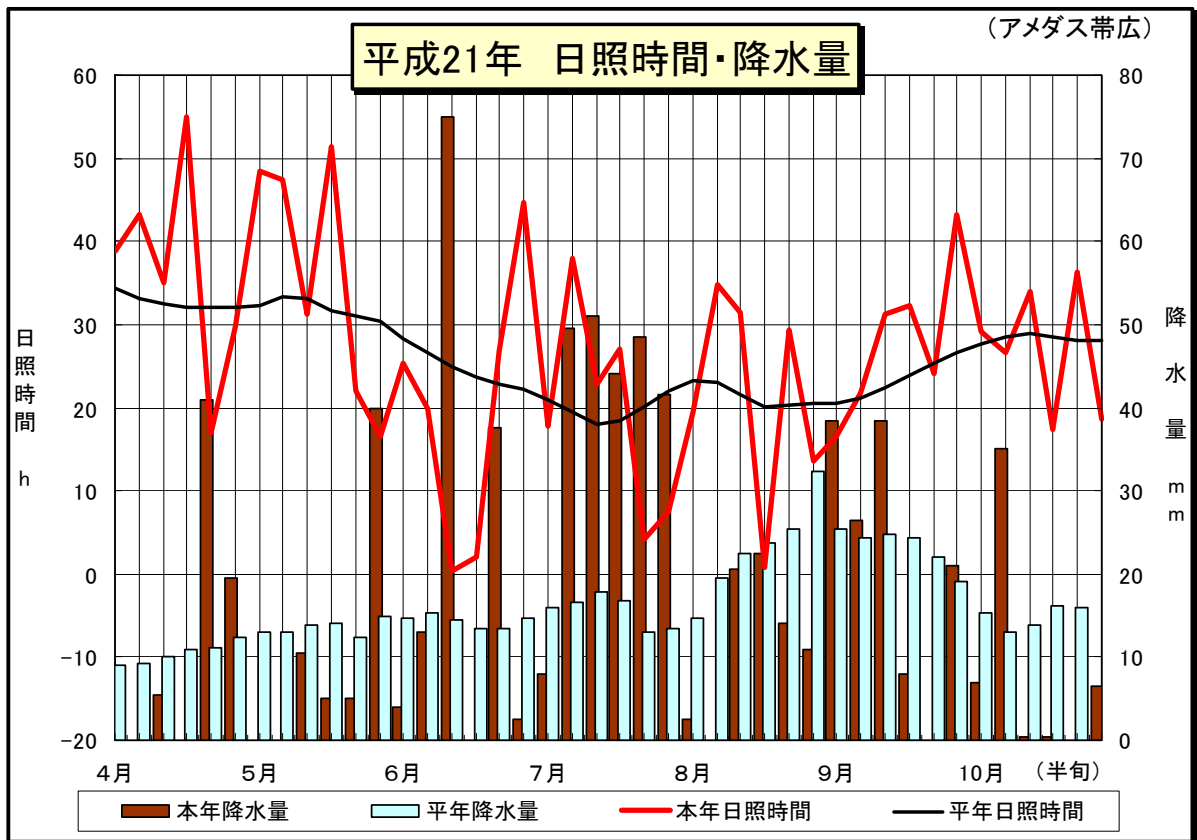
表 気象経過(4～9月・帯広市)

| 区分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
|----------|--------------------|--------------------|---------------------|---------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| 平均 気温 | 6.2℃ (+1.8℃) | 12.8℃ (+1.8℃) | 14.5℃ (+0.3℃) | 17.9℃ (-0.5℃) | 19.7℃ (-0.3℃) | 16.0℃ (0℃) | 10.3℃ (0.7℃) |
| 日照 時間 | 218.7h (111.6%) | 220.4h (110.8%) | 114.8h (82.3%) | 118.9h (97.4%) | 131.9h (99.0%) | 169.2h (120.7%) | 165.8h (94.5%) |
| 降水量 | 66.0mm (109.1%) | 60.5mm (75.5%) | 132.0mm (153.7%) | 242.5mm (256.9%) | 70.5mm (50.6%) | 132.5mm (94.8%) | 49.5mm (54%) |

出所:十勝支庁農務課作成



出所：十勝支庁農務課作成(アメダス帯広のデータ)



出所：十勝支庁農務課作成(アメダス帯広のデータ)

(2) 生育状況について

各作物の生育状況は次のとおりであった。

○ 秋まき小麦(ホクシン)

は種期は平年並の9月23日、出芽期は1日遅い9月30日であった。その後、降水量が少なく、茎数は少ない状態で越冬を迎えた。

融雪は3日早く、起生期も平年に比べ2日早かった。雪腐病の発生も少なく、越冬状態は良好であった。

起生期以降4月は比較的好天に恵まれたが、下旬に降雪を伴う低温があり、幼穂形成期は平年並の5月3日であった。5月は好天に恵まれ生育が進み、止葉期は平年より3日早い5月27日であった。

6月10日に出穂揃となったが、翌11日から22日まで連続して低温、日照不足となり、開花・稔実に影響が出た。7月は月を通して降水量が多く、中旬以降は低温、日照不足も重なり、登熟に影響が見られ、成熟期は平年より2日遅い7月29日であった。

倒伏は、6月23日の大雨で一部の地域で発生して以降、断続的な降雨により、最終的な倒伏面積率が6.1%とやや多かった。

病害虫については、赤かび病の発生がやや多かった。

○ 豆類

は種期は、大豆で平年より2日早く、そのほかの豆類については、平年より1日早かった。出芽期は大豆で2日早く、手亡で1日早かったが、そのほかの豆類は平年並であった。出芽は概ね良好であった。

出芽後の多雨、日照不足により初期生育が遅れ、7月1日の時点では、大豆が1日、小豆が3日、金時4日、手亡が3日の遅れとなった。

7月は月を通して降雨が多く、各豆類とも生育の遅れが拡大し、開花期は大豆が平年より3日、小豆が4日、金時と手亡が5日遅れた。

8月第2、3半旬に高温、多照の日が続いたため、大豆と小豆の着莢状態に好影響を与えたが、菜豆類の着莢回復には結びつかなかった。

9月に入っても上中旬が低温、多湿傾向で大豆を除く豆類は登熟が遅れた。成熟期は大豆が平年並、小豆が4日、金時、手亡は5日遅れとなった。

最終的な着莢数は大豆が平年対比102%、小豆が85%、金時が71%、手亡が82%となった。

病害虫については、小豆で炭そ病、金時と手亡で根腐病、菌核病、灰色かび病の発生がやや多かった。湿害による防除作業の遅れでヨトウムシの発生が見られたほかは、害虫の発生は少なかった。

○ ばれいしょ

融雪は平年より3日早く、ほ場の乾燥が進んで耕起作業も2日早く始まったが、4月22日の降雨、4月26日の降雪の影響で、植付期は平年に比べ3日遅れの5月2日となった。植付後は好天で経過したため、萌芽期は平年に比べ1日早い5月27日となった。

萌芽後は6月下旬まで低温、日照不足が続き生育が遅延した。

着蕾期は平年並の6月16日であったが、開花期は平年より3日遅い7月2日であった。7月は月を通して降雨が多く、病害虫防除に支障を来した。8月は少雨傾向で推移し、茎葉黄変期は平年並の8月19日となった。

生育量については、茎数は平年並であったが、茎長が平年対比86%に留まった。

病害虫の発生については、防除のタイミングを失したほ場が多く、疫病の発生が多かった。

収穫作業は、平年より2～3日遅れで推移した。

○ てんさい

は種期は平年に比べ1日早い3月11日であった。

融雪は平年より3日早かったが、4月22日の降雨、4月26日の降雪の影響で移植期は平年に比べ3日遅れの5月4日となった。移植後は好天に恵まれ、活着も良好で、6月15日までは平年を上回る生育であった。

しかし、6月の中旬を中心とした低温、日照不足により生育に遅れが生じ始め、その後は多雨によりほ場が過湿状態となり、根部の肥大が遅れた。

8月上旬の好天により、根部肥大が若干回復した時期もあったが、最終的には根周は平年比で95%となった。

糖業の受入れ開始時期を遅らせたことから、収穫作業は平年より、2日程度遅れて始まった。

病害虫の発生は、湿害の影響を受けたほ場で根腐れ病の発生がやや多かったほかは少なかった。

○ 牧草

ア 1番草

融雪期は4月1日、萌芽期は4月15日で平年より3日早かった。

4月26日に降雪はあったが、融雪後の生育は平年より1日早く生育した。

5月中旬から少雨傾向で生育はやや停滞気味であったが、6月上中旬の断続的降雨により、平年並から1日早く生育した。しかし、日照不足の影響で徒長気味の生育となり降雨と相まって倒伏が見られた。

収穫は断続的な降雨により遅れ、1番草の収穫期は6月27日で平年より4日遅かった。

イ 2番草

1番草の収穫遅れにともない、当初は4日遅れの生育であったが、7月上旬の高温により生育は回復傾向となり、最終的な草丈は平年比99%の平年並となった。しかし日照不足により軟弱な生育であった。

○ とうもろこし(飼料用)

は種期は5月12日で平年より3日早く、出芽期も5月24日で3日早く初期生育は良好であった。

6月中旬の低温、日照不足により生育に遅延が見え始め、6月下旬の好天により一時回復したものの、7月中旬からの多雨及び下旬からの低温日照不足により、8月1日の時点では平年より3日遅れとなった。

雄穂抽出期は8月7日で平年より5日遅れ、絹糸抽出期は8月10日で4日遅れとなった。この間、一部地域を除き、稈長、葉数は平年並に回復したものの徒長気味の生育であった。

絹糸抽出以降も低温の影響により、乳熟期が9月7日で平年より4日遅れ、糊熟期は9月20日で5日遅れ、黄熟期は10月4日で6日遅れと登熟の遅れが大きくなった。登熟の遅れにより収穫作業も遅れ、収穫期は10月6日で平年より6日遅れた。

また多湿の影響から、一部地域で、9月中旬よりすす紋病の発生が一部地域でみられた。